



課題に向かう熱意が学校を創る ～学校づくり応援事業～

全ての子どもは“登校するのが楽しみな学校”を希求しています。そして、その学校に必要な条件は『①授業…よく分かり魅力ある授業』『②友達…仲良く信頼し合える友達』『③先生…励まし自尊感情を高めてくれる先生』です。

このような学校づくりをめざし、学識経験者等を交えて“学校づくり応援事業”を進めています。

今回は“児童・生徒の視点からの教育活動の振り返り”を大切に、トライを続ける学校を紹介します。

南中学校 6/13 校内授業研究 1年英語

授業で学校を変える

学校教育目標の第一に『確かな学力の育成』を掲げ“授業改善”で生徒一人ひとりをもっと輝かせようと全職員が取り組んでいます。

特に研究と検証を進めているのが“**南中授業スタンダード**”の確立です。教科や指導者がかわっても“学習の進め方”をそろえることで「生徒は見通しを持って意欲的に学べるのではないか」という考えに基づき、各教科の特性は考慮しつつ“学習への意欲と達成感”を大切に授業改善を進めています。



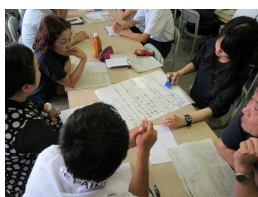
同じ観点から授業を観察することが、授業後のグループ討議に活かされます。



誰もが意欲を持って参加できるグループ学習が成立しているのかも観点の一つ。

校内授業研究では“めあて・見通し・思考・表現・交流・振り返り”など、一連の学習過程について活発な意見が交わされ次の授業に反映されていきます。この積み重ねが、教員一人ひとりの専門性を高め、授業改善への大きな原動力になっているのだと思います。(次回の校内授業研究は「技術・家庭科」の予定です)

さらに、南中学校では**学力を高めるための**具体的な取り組み内容を「学校通信」として全家庭に知らせています。



生徒の“学ぶ姿”から授業を考え改善点を見出します。

例えば、①授業 ②指導方法 ③朝学活・読書活動 ④英語教育 ⑤ボランティア活用等…これらを改善・充実させる具体的な内容と意気込みとが全面に記され、「全力でやりきろうとする決意」が伝わってきます。生徒・保護者・教職員が“取組み内容”を共有することで三者間の信頼感を一層高め、学校づくりへの理解と協力を得る良い契機になると考えます。



グループ毎に交流し合った意見を発表。共通理解を進め課題を確認していきます。

“いのち”を感じた安全・安心スクール

☆スポーツテストで倒れた友だち。駆け寄ったが意識が戻らなかった。何もしてあげられなかった。

☆練習中、突然逝ってしまった野球部員の中学生。大声で呼び掛けるしかなかった。

☆母が倒れた。学校で習った心肺蘇生を救急隊の到着まで必死で続けた。そして生還！



心臓マッサージの位置・強さ・回数・腕の伸びを確めて何度も繰り返す。(三中)

—— 事故現場にいて突然の“死や生”に出会った人が語り掛ける映像を、喰い入るように見つめる生徒たち。応急手当の説明を聴き、懸命に実技実習に取り組みます。救わなければならない“いのち”を目の前にして「自分には出来るだろうか？いや、やらなければ！」こんな真剣さが表情から伝わってきます。

心臓マッサージ・人工呼吸・AEDの操作の実技実習の体験を通して『一人ひとりの“いのち”は決して当たり前でないこと。“いのち”は生かされなければならないこと。』を改めて気付かされたようでした。

応急手当の知識・実技を身に付ける以上に、自分の“いのち”の大切さを意識し実感できる『命の教育』でした。



気道確保、吹き込み、胸の確認を何度も何度も…誰も音を上げません。(三中)



地域安全安心推進リーダーの方々も協力。

大阪狭山市の全中学校では、市役所・消防本部・地域安全安心推進リーダーの皆様の協力をいただき、「保健」の授業として1、2年生は応急手当に必要な知識の習得を図り、3年生では実技講習を行います。そして卒業時に「普通救命講習修了証」が交付されます。

体験から気づき感じ考えます そして自尊感情を高めます



一人ひとりが丁寧に植えていきます。広い水田の田植えも皆の力でやりきりました。(南一小)

田植え体験

「田植えのことを教えてくださいまして。ありがとうございました。植えてみたらむずかしかったです。深く植えるのが一番むずかしかったです。次の稲かりもがんばります。」…これは農業委員会と市役所のご協力で、初めて“田植え”を体験した5年生児童の感想文です。南一小は6月7日に、第七小は6月9日に、歓声を上げながら土の感触を楽しみ田植え体験をしました。

大阪狭山市の各学校園では「人や地域社会とのつながり」を“めあて”にした体験活動を積極的に進めています。様々な体験活動を通して「気づき 感じ 考える」ことで“人との信頼と地域社会への愛着”を育みます。



「苗をくださいーい」「投げるで、ほーれー」苗に込められた“ぬくもり”を感じ取ります。(七小)

狭山高校の運動会に西幼稚園々児が参加



そろそろ入場する時間なのでゆっくり下ろすよ。



音楽にのせた踊りに大きな手拍子が送られます。

「自分・役立っている自分」に気づき、将来自立して社会の中で生きていく力の源になっていきます。



「肩車おもしろかったわ」会話が弾む弁当時間。

小学校連合運動会



同じ中学校区で共に頑張る友だちに声援を送り続けます。

6月9日に、市民総合グラウンドで小学校連合運動会が行われました。7校の小学6年生たちが、赤組(狭山中校区)・白組(第三中校区)・青組(南中校区)に分かれて競技と応援に力を尽しました。中学校区毎の事前の「交流会」の成果がうかがえます。学校を越えた声援が「つながりを深める」ことや「競ったり力を合わせたりして味わう達成感」は、仲間としての意識を高める」ということを学んだようでした。

私たちは“授業づくり・集団づくり・体験活動等”の教育活動を通して、「喜びや自信・誇りを感じ、主体的に歩みを進める子どもたちを育てたい」と願っています。このため「計画を実践し、評価して、工夫改善する」PDCAサイクルで、倦まず弛まず進めていく必要が強く望まれます。



保・幼・小・中の連携が 育ちの連続性を支えます



園児の「楽しみたい！」が学習の基盤です。

各中学校区では“子どもの育ちの連続性”を踏まえた取組みが『元気あっぱ事業』を中心に進められています。

狭山中学校区では“英語学習”をテーマとする「保育」と「授業」の相互交流を行い、保・幼・小・中が合同で子どもの『学び』を考える取組みを始めました。6/29 東野幼稚園5歳児クラスで行われた“英語の公開保育”を、保・幼・小・中の先生25人が参観しました。

英語を聞いた瞬間、子どもの表情が変わります。身体から“楽しさ”が溢れています。年間30回分、1回25分間の「目標・活動の順序・使用教材・使う言葉・学習形態」等々が詳細に計画されており、テンポの良い活動は、子どもにとって「学習＝アクティブ＝楽しいもの」であることを、改めて強く感じました。



保育から学ぶ。授業から学ぶ。そして、豊かな学びにつなげたい。

保育と授業の交流は「学びを子どもの視点から」考える良い機会になっていくと思います。参観後の交流会では、今回の成果を踏まえて、次回以降への期待が高まっている雰囲気印象的でした。(次回は 7/29 東幼稚園で合同研修会の予定です)



中学校区で子どもを育てる視点から意見が出され共有されていきます。

一方、第三中学校区では 8/10 タイムリー研修での「実践報告会」に向け、保・幼・小・中の合同研修会が行われ、5つの部会に分かれて活発な意見交流が行われました。

それぞれの学校園は、異なった課題や目標を持っています。しかし“健やかな育ち”を実現するには、育ちの「連続性」と「地域的な広がり」に対応した取組みが不可欠です。第三中学校区でも“交流と連携”を重ね、中学校区で子どもたちを育てていこうとの機運が高まってきています。